

【北岡杯争奪少年野球大会 大会規則】

1. 試合

- ①大会の試合イニング数は、6回戦とする。
- ②試合時間は、試合開始後90分経過したときは、新しいイニングに入らない。
- ③コールドゲームは、3回10点差及び4回以降7点差ついた場合試合の成立。
- ④降雨等の悪天候の場合、4回の表裏が終了した時点または試合時間60分を経過した時に試合成立の原則とするが、サスペンデット・点差・大会日程を考慮し特例を設ける場合がある。
- ⑤延長戦はタイブレーク方式、2回まで無死1・2塁継続打順とする。その後抽選で勝者を決定する。
- ⑥申告故意四球を採用:守備側チーム監督がタイムを要求し、審判員に故意四球の意思を伝えること。

2. 試合前

- ①チームの集合は、試合開始予定時刻の30分前とする。
- ②シートノック
 - 1)捕手はプロテクター、レガース、ヘルメット、マスクを着用のうえ行うこと。
 - 2)控え選手がノッカーの近くでボールを処理するときはヘルメットを着用すること。

3. 打者

- 打者の手袋・リストバンドの使用は原則として認めない。
(原則としないときは、選手がケガ等で必要な場合は試合前に審判に届け出ること)

4. 投手

- ①投手の投球練習原則は、初回7球、2回目以降は3球とする。
- ②監督がタイムをとり投手に指示を与える場合、ラインを超えてダイヤモンドに入ることができる。
- ③説明を要しない明らかな不正投球は1回目からボークとする。
- ④投手の投球制限は、1日6イニングまでとする。但し、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大8イニングを投げるができる。

5. タイムについて

- 監督が投手のところに行く回数は3回以内、守備側のタイムの回数は3回以内、攻撃側のタイムの回数は3回以内とする。なお、延長戦は2イニングに1回行くことができる。

6. 審判

- ①審判の割り当て
 - 1) 1日目は、2面の試合会場については、第一試合と第二試合の前後が担当し、第三試合は対面審判で行うものとする。
ただし、1面の試合会場については、第一試合と第二試合の前後が担当し、第三試合は第二試合の負けチームで行う。
 - 2日目は、主催者側で行う。
- 2) チーム審判員は2名とし、組み合わせ番号の若い番号が、予備審判（記録員）と二塁、大きい番号が一塁と三塁を担当とする。

7. その他

- ①登録された監督とコーチは、監督30、コーチ28と29のユニフォームを必ず着用すること。
監督が代行者の場合は、試合前に審判に届け出ること。
また、ベンチ入りの指導者は5名以内としチーム代表者、スコアラーはチームの帽子を着用すること。
- ②上記以外の項目に該当しない事例が生じた場合、審判及び主催者側にて協議の上決定する。